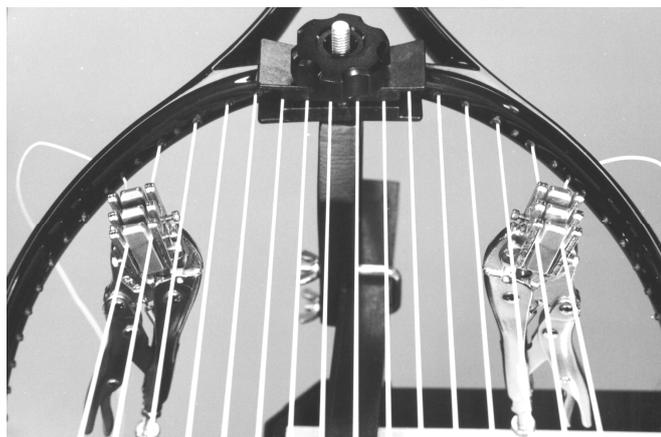
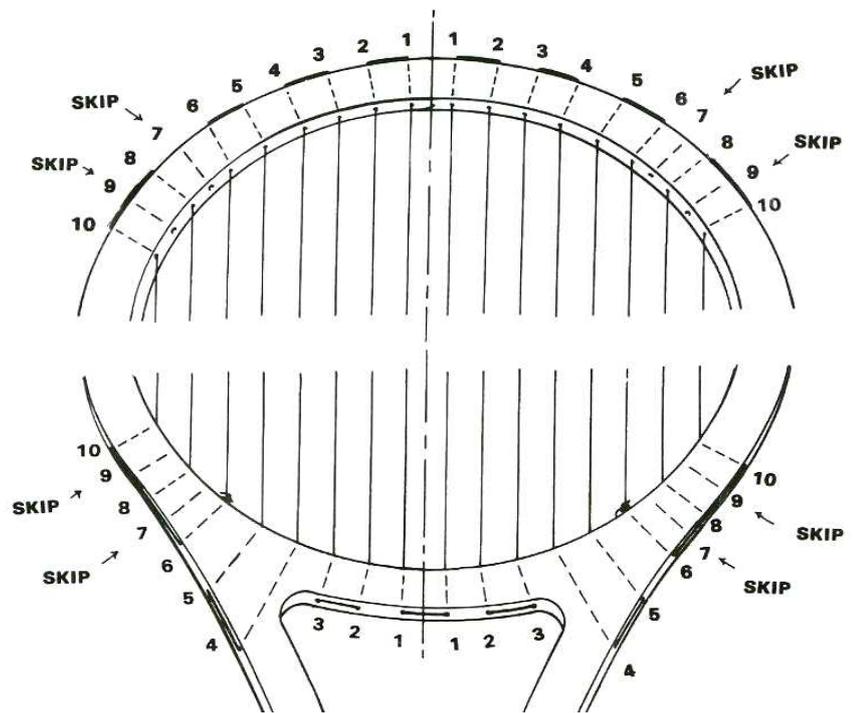




ストリングパターン表にある“Skip M Holes メインを通さないホール”の列をチェックしてください。記入された番号のホールを空けたままスキップ（目を飛ばし）します。これらスキップしたホールにはクロスストリングを通します。

下図は、トップフレーム（トップ）の7番と9番のスキップを表しています。

ラケットの中心線から左右に一つめをそれぞれ1番とし、順番にホールを一つずつ数えていって、番号を決めます。



上図もボトムフレーム（ボトム）の7番と9番のスキップを表しています。トップ部同様に、ラケットの中心線から左右に一つめをそれぞれ1番とし、順番にホールを一つずつ数えていって、番号を決めます。

そして、メインの最後のストリングは左右共3ポンド程度、テンションを強くしてください。こうしておくことによって、ノット（結び）を作るときのテンションの減少が相殺出来ます。

その後、テンションを元の数値に戻しておくことを忘れないでください。

ノット（結び） KNOTS

メインストリングを張り終わった左右両サイドのストリングを結び固定します。

このポイントでターンテーブルの回転を止めるのに「ブレーキピン」が役立ちます。（小型の工具袋に入っています）

「ターンテーブル」の穴に「ブレーキピン」を差し込み、回転を止めます。

そして、ストリングパターン表にある“TIE M メインの結び”列の数字を確認してください、ラケットの中心線から数えた数字のホールが正しい固定位置です。

ワンピースストリングの場合はストリングの短い方のみを固定します。長い方のストリングはそのままクロスストリングを張ってゆきます。

ノットの手順の前に、結びを作るために余裕を持ってストリングをカットします。（長めであってもノットの前にあえてカットする必要はありません。）

もし、ホールにストリングを通すときにトラブルを起こしそうな不安があれば、「ストリングプライヤ」を使って、ストリングをつまみながら押し込んで通してください。

「ストリングアウル（千枚通し）」を使って、ストリングを狭いホールに回転させながら通すことも出来ます。

2回目のストリングのためにもストリングがホールで動くためのスペースを作ることになります。

注意：「アウル（千枚通し）」の先端でホールの中を左右・上下に突かないでください。



ストリングを押して、外側からホールに通し、内側から引っぱって全てのストリングを通してしまいます。ここで、通したストリングの先をメインストリングの下にします。

このマニュアルのノット（結び）はダブルハーフヒッチと呼ばれ、日本語で言うと「2回固結び」です。

「固結び」はチョウチョ結びの前に、小さい頃に習う一般的な結び方です。

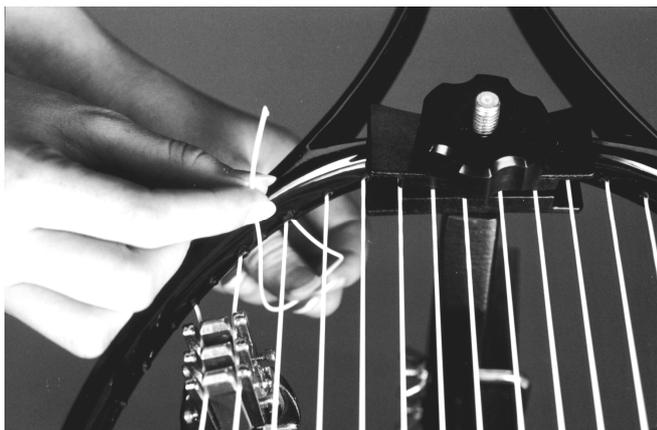
下記の説明を読まれる前に、「兵丹島」ウェブサイト内、製品・サービスページの下段「ノット（結び）の作り方動画集」をご覧ください。

この動画は音声は英語ですが、動画で十分理解出来ますし、結び（ノット）を理解する近道です。

Yahoo や Google 等の検索エンジンで「兵丹島 製品／サービス一覧」で検索できます。

ダブルハーフヒッチ=Double half-hitch でご覧いただけます。

また、それ以外の結び方も動画収録していますので、慣れるに従って試してみてください。



ストリングの先をもって、メインストリングのもう一方の間から上に上げます。



メインストリングをまたいで、上から元出てきたメインストリングの間に通し、その先を出来た輪の中に通します。



「プライヤ」で下に向けてきつく締めます。
これで、ノットの半分の過程が終了しました。



そして、さらにストリングの端を持って、今「プライヤ」で下に締めた同じサイドから上に通します。